



ある日、吉よむさんは、大きなびくを持ってうなぎ釣りに出かけました。ところが、ぜんぜん釣れません。

「もうちよつと川上に行けば、釣れるだろう」と吉よむさんは思いました。

そこで、吉よむさんは川上へ上って行きましたが、いつの間にか、竹田の殿様の領地に入ってしまった。実は、吉よむさんは臼杵という殿様の領地の人なので、す。

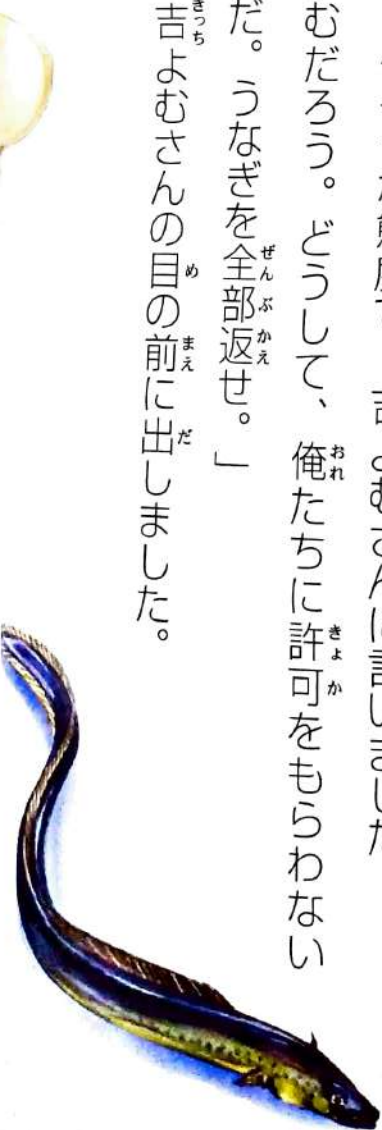
そして、よそ者の吉よむさんがうなぎを釣っているのを竹田の殿様の家来たちが見つけてしまいました。

家来の武士たちは「あの男は、臼杵の吉よむだ。あのうなぎを没収しよう。」と、思いました。

心の良くない武士たちですから、偉そうな態度で、吉よむさんに言いました。

「おい、お前は臼杵領の吉よむだろう。どうして、俺たちに許可をもらわないで、竹田でうなぎを釣っているんだ。うなぎを全部返せ。」

武士たちは怖い顔をして、手を吉よむさんの目の前に出しました。



すると、吉よむさんは武士たちに言いました。

「変なことを言わないでください。臼杵の野津市では、わたしの名前を知らない人はいないんですよ。わたしがよそのうなぎを盗むはずがないでしょう。」

武士は怒って、

「うそを言うな。わたしたちは、お前がここでうなぎを釣っているのをずっと見ていたんだ。」と言いました。

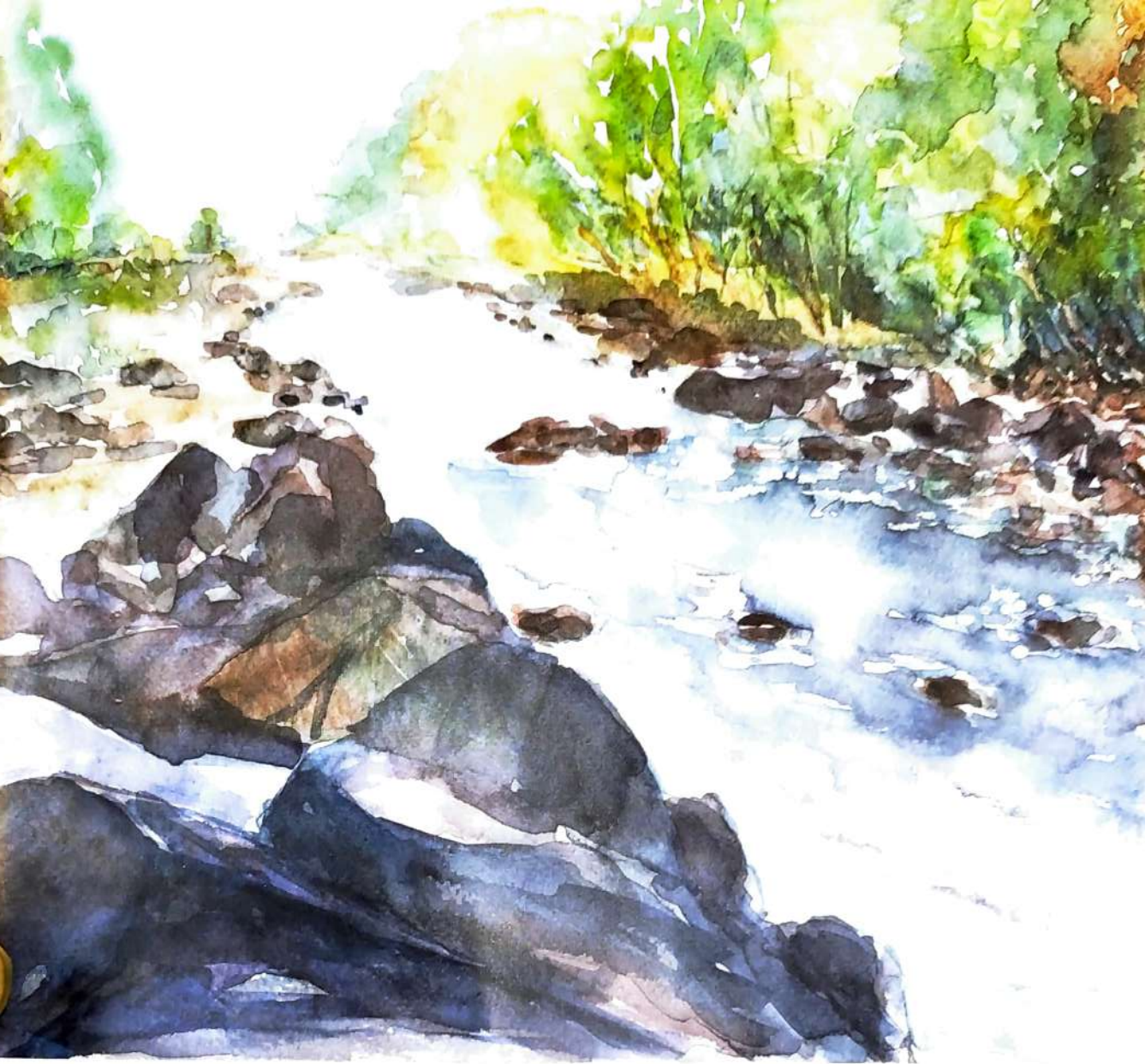
吉よむさんは、

「いいえ、ここで釣っていますが、釣ったうなぎは竹田領のじゃありません。川下の臼杵領から大きなうなぎが二、三百匹川を上って来たから、私はそれを釣っているんです。」と答えました。

ちょうど、その時、大きなうなぎが釣れました。

「このうなぎは見たことがある。これはきっと臼杵領のうなぎだ。」と吉よむさ





んは言^いって、びくに入^いれま
した。その後^ごすぐに、今^{こん}度^ど
は、小^{ちい}さなうなぎが釣^つれま
した。

「わあ、なんて小^{ちい}さいう
なぎなんだ。見^みたことがな
いうなぎだ。臼^{うす}杵^きの方^{ほう}から
上^{のぼ}って来^きたということは、
臼^{うす}杵^き領^{りょう}のえさを食^たべたん
だろう。この泥^{どろ}棒^{ぼう}うなぎ。
今^{きょう}日は許^{ゆる}すが、これからは
絶^ぜ対^{たい}するな。」

と吉^{きつ}よむさんは言^いいな
が、小^{ちい}さなうなぎを川^{かわ}へ戻^{もど}

しました。

吉よむさんは、その後も、大きなうなぎが釣れると「臼杵領のうなぎだ」と言っ
てビクに入れて、小さなうなぎが釣れると「竹田領のうなぎだ」と言って川へ戻しま
した。

武士たちは呆氣にとられてしまって、何も言うことができないで眺めているだけ
でした。

吉よむさんはうなぎをいっぱい釣りました。そし
て、重そうなビクを下げて家へ帰って行ったそう
です。【大分県のお話】



白杵的鰻魚



有一天吉優畝提著大大的魚籠出外釣鰻魚，卻不知為何一條也沒釣到。

他心想，「再稍微往上走的話，應該就可以釣到吧！」於是他朝上游直去，不知不覺進入了竹田大人的領地了。其實吉優畝是白杵大人領地的人。竹田大人的家臣發現了吉優畝正在釣魚。

「那傢伙是吉優畝嘛！（走！）我們去沒收他的鰻魚。」

壞心眼的武士，態度傲慢地對吉優畝說：

「喂！吉優畝，你不是白杵領地的人嗎？你沒有我們的允許，怎麼可以在竹田領地釣鰻魚？鰻魚全還給我們！」武士滿臉猙獰地將把

手伸到吉優畝面前。

吉優畝對武士們說：「您別淨說些奇怪的話！我是吉優畝，在白杵野津市沒有人不認識我，我怎麼會偷釣別人領地的鰻魚！」

武士怒罵：「你說謊！我們從剛才就確確實實看見你在這邊釣魚！」

「哪兒的話！我是在這邊釣魚，但是釣的可不是竹田領地的鰻魚！是因為有兩三百條大鰻魚從下游的白杵領地游到了這兒，我正在釣那些大鰻魚。」說著說著大鰻魚上鉤了。

吉優畝說：「我見過這條鰻魚，這一定是白杵領地的鰻魚沒錯！」說著就將鰻魚放入魚籠裡。不一會兒，又釣到了小鰻魚。

「哇！多麼小條的小鰻魚啊！我對你一點印象也沒有。你從白杵那兒游上來的，看來你是吃了白杵領地的食餌？你這鰻魚真是個小偷

啊！今天我就原諒你，下次我可絕不放過你！」說著就把牠放回河裡。

之後，吉優畝如果釣到大鰻魚，就說這是白杵領地的魚，放入魚籠裡。如果釣到小鰻魚就說是竹田領地的魚，放回河裡。就算是壞武士們也無言以對，只能瞠目結舌地看著。

據說吉優畝盡情地釣完後，就提著沉重的魚籠回去了。

